

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271201848		
法人名	有限会社 カムアクロス		
事業所名	グループホームしいえす常盤平		
所在地	千葉県松戸市常盤平3-12-3		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404		
訪問調査日	平成24年 12 月22 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スタッフ一層、日々専門性の高い学習を重ね実践に反映していることで、安全で安心できる生活を送ることが出来ています。また一人ひとりの出せる力が発揮され、梁のある楽しい生活の場となるよう、利用者の皆様とスタッフが一体となり、作品や特技を披露できるイベントを企画し、発表から展示の喜びから次の意欲へと繋がってくる実感を味わうことが出来る施設です。また食事の提供においても、栄養、盛り付け、視覚の面でも楽しみがある食事づくりに配慮し、支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は理念を共有しつつよりよい支援ができるよう、計画した日課の他は、ゆっくりとこたつに入る、庭で外気浴をする、趣味に時間を割くなど、利用者の意思に従い、無理強いをせず支援をしている。支援は家族の要望や方針の範囲内で理念に沿って行っている。  
事業所は身体拘束をしないケアを実践するために、カンファレンスで職員の声を聞き利用者の不安や混乱を生じさせないように支援している。外気浴や生姜湯などの奨励が、健康維持と不安解消に役立ち、利用者が理由もなく外へ出る動機を抑制している。  
また職員の離職が殆ど無く、開所以来、利用者と家族のように触合って支援する職員が多く素晴らしい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【ありのままでもいいんだよ】の理念を共有しつつ、よりよい介護ができるよう、居心地のよいホームであるように管理者、職員一同実践、支援しています。	事業所が計画した日課の他は、ゆっくりとこたつに入る。庭で外気浴をする。趣味に時間を割くなど、利用者の意思に従い、無理強いをせず支援をしている。支援は家族の要望や方針の範囲内で理念に沿って行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事予定を組み、家族、近隣住民参加の声がけ電話連絡等を行っている。町内の理容室を利用したり、地域スーパーを利用しながら、地域への参加をしています。	近隣は日中不在の住環境だが、盆踊りや桜祭りへの参加、ゲートボールの観戦等住民の集まる場所へ出かけ、庭での外気浴の際は前を通る子供達とも声を掛け合い、地域との接点を見出しながら支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の相談員、地域包括センターのご協力ご指導を受け、またご家族の協力を得ながら、地域に溶け込めるよう努力しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期開催を行い、実践状況の報告やその時々テーマに沿って問題を提起し、評価を行いながらサービスを行っております。	地域包括、市の相談員等の参加を得て2ヶ月毎に開催している。近況報告とともに、インフルエンザやノロウイルスの感染予防等その都度テーマを設け意見交換を行っている。結果はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護給付課、地域包括支援センターとの連絡を取り、利用者の生活がよりよい物となるようご指導を頂ける様協力関係を築いています。	事業所は市へ積極的に情報を提供するとともに、市の助言を聞き、利用者の生活向上に活かしている。また、定期的に訪問する市の介護相談員は利用者全員の声を聞き、事業所にアドバイスしてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【ありのままでもいいんだよ】の理念のもと、原則として施錠はしないことにするため、玄関のドアにパイプチャームを取り付けている。また危険の予測がある場合、可能な限り付き添い見守ることを職員全員に周知し実践に取り組んでいます。	事業所はカンファレンスで職員の声を聞き利用者の不安や混乱を生じさせないよう支援している。外気浴や生姜湯などの奨励が、健康維持と不安解消に役立ち、利用者が理由もなく外へ出る動機を抑制している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員の定期的研修、また外部で受けた研修の発表の場を設け、虐待に関してはいかなる場合でも見逃すことの内容全職員が意識し実践するよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において専門職の講義を受けたり、管理者として権利擁護に関する研修を受け、学んだことを活用できるように、施設内研修を行い全職員に周知する機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、ケアプラン作成において、入居者様ご家族にわかりやすい説明を行い、不安、疑問が無いか確認し、理解納得を得たうえで契約をして頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ご家族には、常にコミュニケーションをとりやすい環境を作っている。ご意見、要望があればいつでもお受けできるよう、面会記録表を設け自由に申し出られるようにしている。また話しやすい環境を作るようにしています。	面会後の家族には、面会記録表へ利用者について感じたことを書いて頂いており、カンファレンスでこれを掘り下げ、支援計画に活かしている。また、記述をしない家族からも率直な意見を聞き支援計画に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務を実践していく中で、疑問や改善の案があるときには、朝礼、申し送りノートに上げ、その都度検討・処理し、反映できるようにしています。	毎週水曜日の職員の研修会は、法の理解促進や介護技術の習得に充てているが、その他、職員が自由に発言できる場としている。特に利用者個々の支援については、この場の職員の意見を基に方針を決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部、外部研修を受ける機会を持ち、各自が向上し、内部評価にも反映させ、やり甲斐を持ち働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、外部研修と各人に合った研修を提案し、資格者及び経験者が講師となって内部指導をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は系列の施設との勉強会、検収を通して交流を深め、お互いの良い活動をサービスに反映できるよう、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設生活が始まってから不安の様子や困っている様子がないか、些細な表情からも汲み取り声かけ、傾聴の関りを取りながら安心して生活を楽しんで頂けるよう、各職員の特徴を生かし支援、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時には、本人の生活状況や身体状況を報告し、安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供とともに、施設での暮らしによる環境の変化に合わせ、内容を変更し、他のサービスの利用にも対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のADLに合わせ、できることを一緒に行い、また出来る力が発揮されるよう、見守り支援するかかわりの努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から今までの生活状況や習慣を聞き取り、相談しながらご本人を支えています。またイベント等を企画し、お誘いし共に参加できる支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は楽しみにされています。遠方のご家族や体調が悪くて来られないご家族には、電話やお手紙に写真を添えるなど、近況をお伝える支援をしています。	家族との関係継続を支援する一方、時々21世紀の森へ出かける、最寄りのスーパーで買い物をする、外気浴の際、近隣の子供たちと触れ合うなど、地域との繋がりが途切れないように工夫をし、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、楽しく過ごせるよう、利用者一人ひとりを把握し、コミュニケーションがスムーズに図れるように職員がつなぎ役として話題を提供し、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、職業歴を顧みて、その人らしい生活のあり方の検討を行い、話題の提供、共感できるような会話や傾聴の機会を設けています。	開設以来の利用者も居られるが介護度の低下が極めて緩やかである。左欄の自己評価のようによく自然に大切にされていると見受けられる。尊厳の維持のみでも利用者の表情は爽やかになる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行為や行動が、その人にとっての経験の何処から来た物かを考慮し、ケアに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶の声がけにより、その人の心身の状態を把握して、一日が快適に過ごせる支援が出来るよう、努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの中から、現状と以前の生活とのつながりを知りえなかった新たな事実が判明することもあり、介護に役立てています。	利用者調査のこの課題に対する反応は、制度の根幹であるケアプランの共有と作成の協働が行われている。日常的にきめ細かく、家族との協働による参加意識が利用者調査に表出されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い、ケアの共有化を図り、実践しながら記録し、ケアの見直しを行い、計画に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活リハビリについては、主治医と相談して、自己の内容最善を尽くしています。またご本人、ご家族の希望により、外部のマッサージの利用など、社会資源を活用し、支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地の利を得て施設前の桜並木で恒例のさくら祭りに毎年参加、賑わいの中に溶け込んでいます。また近隣の公園等で散歩を楽しんだり、季節の移り変わりには、森林、草花の探索を楽しむこともあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受け、状況によってはご家族に連絡、報告を行っております。緊急時には提携する総合病院に搬送できるシステムができています。	かかりつけ医との連携と診察の日常化、このことによる利用者と家族の安心感が利用者調査にある。緊急時の総合病院への搬送も慎重に行われ、医療機関との信頼に繋がり、利用者や家族の安心感となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師さんに心身の状況の変化を告げ相談を行い、主治医との連携に配慮しております。相談内容は業務日誌に記録しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は定期的に訪問し、状況の把握に努め、退院がまじかであるかどうか、リハビリの状況等の情報を得て、退院の備えて病院の主治医との関係を持っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネジャーを中心に日頃から病状の把握に努め、家族に連絡の上、その意向を把握して主治医に相談できること、出来ないことを家族にも伝え、訪問看護ステーションと関係を作っています。	訪問診療や二次病院の確保、訪問看護の利用も、医師指示書と共に利用者や家族の心労が和らぐ支援となっている。平常時における対応可能か否かの合意は緊急時の家族の冷静な対応に繋がる。家庭の一大事に対してもも労を厭わない支援がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、諸期待応答を周知徹底し、必要に応じ主治医との連携をとりながら支援を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を予測し訓練を行っています。また研修等で実践力を身につけています。緊急連絡網等の体制を徹底し、支援しています。	事業所の建物周辺には空閑地があるなど、緊急時対応の訓練の日常化がなされている。利用者には緊急時対応の食材の用意が数日分確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解、ケアのあり方について研修会を重ね、一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な関りを心がける支援をしています。	事業所オーナーが社会福祉主事活動の経験を持ち、常に利用者との接触、目線を合わせた会話など、全体の状況把握を試みている。事業所の様々な職員による接触の試みが利用者にとって安心と信頼感の醸成になっているように見受けられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	丁寧な声かけをすることで、本人の思いや希望を聞きだし、時間をかけてその思いが実現できるよう、援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状況を観察、把握したうえで、散歩や体操、入浴を実施しています。個々に趣味を楽しめる備品をそろえ、提供しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントや季節ごとの行事の参加、外出時の着替え等、おしゃれ着を自由に楽しんで頂いたり、選択の手伝いを行うことから、季節の変化を感じて頂いています。また訪問理美容を利用しご本人の希望される髪形に仕上げさせて頂き満足できる支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が目でも楽しめるように、料理の盛り付けなどの工夫をしています。配膳や後片付けを職員と一緒にやってもらいます。	食後のお片づけも楽しそうである。精一杯の献立と調理、皆で摂る食事は、好みでない物でも『食卓を囲むとき』が楽しめる。食材を選び、既製品でない惣菜作りに職員挙げて懸命の努力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調、口腔状態に合わせた食事形態の提供、水分確保は、確保困難な利用者様には好まれる味の飲み物などを提供しています。夏場は2000cc、冬場は1200ccを目安とし記録、管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じ、毎食後、本人が出来ない部分の介助を行いながら口腔内の清潔を保持しております。月2回の歯科医往診時に相談しながら清潔保持の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを職員同士が把握・共有氏ながら、トイレ誘導または声がけを行い、失敗を減らし、快適に過ごせるよう支援を行っています。	法人内事業所との研修や情報交換など、利用者対応を高める条件が整っている。管理者或は講師を招いた研修も行われている。職員の離職が少なく、開所時の職員もいて経過把握も容易である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、食物の工夫や水分摂取量等に配慮し、軽い運動への働きかけを支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	一人ひとりの希望や体調を考慮し、個々に合った支援をしています。体調によっては清拭や足浴を行い支援をしています。	頑丈な建物内の浴場は開放感があり、利用者個々の状態に添う入浴支援が十分に可能な広さがある。利用者のその日の様子に沿う入浴支援を、状態にあわせて行っている。	企業の寮であったので浴場も個浴より広めである。作業動線への配慮は若干の無理があるかも知れないが将来条件が整えば、十分に改善の条件がある。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況に合わせて、日中は昼寝、また天気の良い日は日光浴等を支援し、夜間は安心して眠れるよう、一人ひとりの見守りを支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の理解をし、支援しています。投薬は間違いのないよう、一人ひとり対面し、日付、名前を復唱、確認しながら実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳、下善、洗濯物畳み等、興味ある手伝いを自信で選んでいただき、日課として生活のリズムになっています。また趣味に集中して過ごされたり、庭の植木の手入れを仕事として、張りのある生活を楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣が商店街なので、散歩しながらスタッフの付き添いで買い物に出かけたり、面会されたご家族も外食を心がけて下さっております。	市内きっての桜並木に面しているこのホームはすぐ隣には石窯焼のパン屋さん、複数のファミレスや大きなスーパー、アクセサリ、ウエア、靴など、おしゃれやグルメには刺激的で心楽しい環境である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ、使えるように支援をしています。個々の状態や希望によっては、職員が対応・支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、関心のある方と連絡を取り支援しています。また電話や手紙等で、本人に代わって近況をお知らせするなどを行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間において、利用者に危険がないよう配慮した生活感や季節感が感じられる空間提供を支援しております。	市街地・商店街の一角にあるホームなので、1階のリビングは都会の居宅のような設えである。しかし2階の共用空間は広く、カラオケも出来る賑々しい空間である。色々な物が並んでいて賑やかで退屈をすることはなさそうで心楽しい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状況に配慮し、好きな作業や趣味を行ったりご自分の居室で過ごされたり、自由な時間を支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の希望により、使い慣れた物を活用し、居心地良く暮せるよう、支援しています。	拝見する同意書を頂かないので個室は詳しく拝見していないが、キッチンと片付いており、朝の起床時の支援、お掃除の支援、着替えの支援をして頂いているござつぱりとした雰囲気でありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできることを観察し、安全な環境を提供しながら自立した生活が送れるよう、支援しています。		